

## 令和7年度「知事と市町長の円卓対話」（紀宝町）概要

- 1 対話市町 紀宝町（紀宝町長 <sup>にしだ</sup> <sup>けん</sup> 西田 健）
- 2 対話日時 令和7年12月23日（火）14時20分から15時05分
- 3 対話場所 きほう健康ぷらざ ホール（南牟婁郡紀宝町鵜殿1190番地）
- 4 視察場所 鵜殿2組津波避難タワー（南牟婁郡紀宝町鵜殿400番地）
- 5 対話項目
  - （1）南海トラフ地震をはじめとした防災・減災対策について
  - （2）地域を守る公立病院及び介護事業所の支援について
  - （3）人口減少対策について

### 6 対話概要

#### 対話項目（1）南海トラフ地震をはじめとした防災・減災対策について （町長）

南海トラフ地震につきましては、甚大な被害が想定される紀宝町においては、防災対策のさらなる強化と加速化が喫緊の課題であります。

県におかれては、「南海トラフ地震対策の強化に向けた取組方針【発災当初から復旧フェーズ版】」の策定や、避難所環境の改善や孤立可能性地域対策を含む「いのちを守る防災・減災総合補助金」などの財政支援制度を新たに創設いただき、防災力強化に努められていることに感謝を申し上げます。

紀宝町でも、さまざまな支援制度を活用して、「あらゆる災害から犠牲者ゼロ」をめざしてハード面・ソフト面から防災・減災対策を推進中です。県の補助を活用して津波避難タワーの建設を進めており、現在、鵜殿地区に3基完成し、井田地区、鵜殿地区で建設を進めております。

引き続き、県ならびに国土交通省、関係自治体などと連携して、防災機能の充実に取り組んでまいります。

災害時の救急活動・救急医療活動に寄与される一般国道42号紀宝熊野道路の整備をはじめとした高規格幹線道路網においても、地域活性化などの整備効果を含めて整備促進に臨むものであります。

浸水対策については、神内川河川改修事業では、平成23年および平成29年の被害と同レベルの出水に対する床上浸水被害の解消をめざして、防潮水門の改築や橋梁等の改良を進めていただいているところですが、地域住民の生命と安全を守るため、1日も早い事業完成を要望するものであります。

これら全ての取組を通して、南海トラフ地震をはじめとした自然災害に対して、地域の防災力を一層強化し、住民の安全・安心を確保するとともに、改正された半島振興法では、半島防災の推進が極めて重要であると位置づけされたことから、災害時における半島地域の孤立防止に必要な防災対策を講じて、国土強靱化の理念をふまえた災害に強い地域づくりを推進していかなければならないと考えておりますので、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

## (知事)

県の津波避難タワーの補助を使っただきありがとうございます。町では3基の津波避難タワーが完成し、今も2基のタワーを建設中であります。今回視察した津波避難タワーには、最上階（2階）には「入る部屋」があり、冬の寒さや雨風をしのぐことができます。簡易トイレも設置されており津波はすぐに引きませんから半日あるいは1日津波をしのげば命は助かります。水が引かない時のために吊り上げ救助可能なスペースも設置され感心させられました。

地震で大事なのが、まず初めの一撃から身を守ること。そのためには家屋の倒壊を防止するために家屋を強化することは大事ですけど、次に襲ってくる津波に備えて高いところに逃げられる避難タワーを造っていただいたのはいいと思います。

去年10月には、スターリンクも導入し、今年11月に追加導入されたということで命を守るという手立てを紀宝町にとっていただいています。

避難所の機能の強化について、スフィア基準が確保できるよう「いのちを守る防災・減災総合補助金」を活用していただきたいと思います。

道路については、新宮紀宝道路は完成し、紀宝熊野道路はあと16km弱残っており、着実に進めていかなければなりません。この道路は、津波の想定区域、浸水区域を通るため、道路ができることによって、道路上に避難することもでき、迅速な救助活動もできるということで、今は用地取得の時期ですが紀宝町にもご協力いただいて進めていきたいと思っています。

神内川については、平成23年に紀伊半島大水害で浸水がかなり発生したと聞いています。令和元年から河川改修に着手しており、強靱化予算を使いながら事業量確保に努めているところであります。引き続き、事業費を確保し、工事を進めるということで、紀宝町にもご協力いただきながら、連携して道路・河川を進めていきたいと思っています。

## (町長)

知事には、半島防災の対応について、「南海トラフ地震対策の強化に向けた取組方針【発災当初から復旧フェーズ版】」を作っただきありがとうございます。

「半島防災」が今後大事になってきます。地震が発生するとどういう状況になるかわからないことも懸念されることもあり、国道42号は津波が来ると壊滅状況になるので、そういった中でこの地域で、災害が発生したときにどういう対応をしていくかが非常に大きな課題であります。今町では、簡単なレントゲンや診療をする機材を車に積んでいる「モバイルクリニック」を整備中で、平常時は、診療所や病院に行くのが厳しい住民のために診療に使用させてもらい、いざ災害があれば、移動できる状況のなかで救急医療にあたられる体制にしていきたいです。

半島の状況をふまえて考えると、災害時は最低でも1週間～10日間は自己完結が可能で自立できる体制とする必要があるため、普段は地域振興のために活用し、地震が発生すれば防災の拠点となるような施設づくりを紀宝熊野道路の完成を見据えながら取り組んでおります。色々挙げますと、避難所への診療所の併設、ガソリンの確保、受援体制の確立等整備を進めていきます。引き続きご支援をお願いしま

す。

## 対話項目（２）地域を守る公立病院及び介護事業所の支援について

（町長）

地域の基幹医療の中心である熊野市・御浜町・紀宝町の３市町で運営している組合立紀南病院および地域の高齢者福祉を担う介護保険事業所や特別養護老人ホームについては、地域住民が安心して暮らせる環境を提供する極めて重要な役割を果たしております。

近年の経済状況や制度の変化により、公立病院および介護事業所は大変厳しい経営状況に直面しております。物価高騰や人件費の上昇により、公立病院では全国的にみても 83.3%が赤字で過去最悪の経営状況であります。介護事業所においても、持続可能な運営が困難になっており、介護従事者の人材確保とも併せて懸念をされているところです。これが続けば、地域の高齢者等が必要な医療や介護サービスが受けられなくなり、地域医療や福祉体制全体に深刻な影響を及ぼすおそれがあります。

特に紀南地域の僻地や中山間地域では介護サービス提供事業所や、中核病院の数が限られておりましてそれらの存在は、住民の生活の質や生命、健康を守る上で欠かせないものでございます。

県としても、紀南病院を含む公立病院や特別養護老人ホーム等を含めた介護保険事業所が持続的に運営できるようご支援を行っていただきたいと思っておりますし、国に対しても、診療報酬および介護報酬の見直しや経費負担の軽減策、制度的な支援要請など強力に後押しをお願いします。

知事におかれましては、国の方にこういった地方の状況をお話しいただいて、医療と介護の支援について、力を貸してほしいというような話をさせていただいてということも存じておりますが、一層、またお力添えをいただければというふうに思っております。

（知事）

医療に関しては、対処療法的にやることと、抜本的にやることがありますが、今は、抜本的にしないともう持たなくなってきました。ただ、医療関係、介護関係は、物価高騰により事業が回らなくなってきました。赤字となっている全国の公立病院は 80%を超えています。これは構造的な問題だと思います。

円安等による海外からの原材料の高騰や物価上昇による賃金上昇などが医療の会計を圧迫しています。そこを何らかの手当をすることを林総務大臣にお願いに行ったところであり、11月末に総合経済対策が決定し、11月28日に閣議決定で国会を通った補正予算により、対処療法的に苦しんでいる病院とか、介護施設への補助金で少しは手当をしていただいたと思います。

ただ、構造的な問題は、対処療法では済みません。病院の維持には非常にお金がかかります。新しい機器を導入しないと、新しい医者が来てくれないという問題もあります。それから国に解決してもらわなければならないものとして、価格の高騰している薬に

ついて、社会保障制度でどうカバーしていくのかという問題もあります。県としてもできることとして、紀南病院に自治医科大の枠を確保して、6人の医師を派遣しているところであります。

将来的には新しい機械を入れないと、なかなかキャリア形成ができないので、僻地の病院には来ないということになってしまうんですが、かつて医局が指示をして、医者がどんなところでも行くということをやっていた。それが外れてしまったものですから、なかなか来てくれない。日本全体で、中山間地域、僻地の病院はあるので、考えていかなければいけない時期に来ているように思います。

ドイツのように一定期間、国が明示したところで働くといったこともやらなくてはならないかもしれません。それが日本の風土に合わないとする、僻地手当をつけるということも必要なかもしれませんが、これは厚生労働省が考えてもらう話だと思います。県としても三重県内の実態を国に伝えていくことが大事だと思います。

加えて、令和8年度から新たな「地域医療構想」の策定に向けて地元の皆さんと丁寧に議論をし、さらなる高齢化の進展や人口減少に対応可能な医療体制が構築できるよう取り組んでいきます。

介護も公定手当であり、上げてもらう必要があるということで、本来であれば令和9年度に上がる予定でしたが、国の方で令和8年度に改定することを決めていただきました。また、介護施設への補助も補正予算で既に組んでもらっています。

全国知事会を通じて、診療報酬と同じように県からも介護報酬について上げていただくよう話をしております。

人材確保について、医師については先ほど自治医科大についてお話しをしました。介護人材ですが、外国の方やってもらおうということで、令和7年5月にインドネシアに行って、三重県に優先的に人材を送り込むということをインドネシア政府から言っていただいています。非常に真面目で、日本語も勉強していただいている方々です。こういう方々に手伝ってもらおうことを含め、やっていきたいと思います。

町長からお話しいただいているように政府に対して県からも要望をこれからもしていきたいと思います。

#### (町長)

知事に大変ご努力いただいていることについて本当に感謝申し上げたいと思います。ただ、知事もおっしゃっていただきましたが、構造的な問題。こんな状況で、医療報酬、介護報酬、本当に国は考えているのかな。この地域の医療資源と介護資源、潰してしまいます。

県民の地域の医療と介護を支えている、一番近くで、頑張っている人が、事業者が、運営できない状況を作っているのはおかしいです。新聞によると、介護報酬は2%引き上げ、障がい者サービスは1.84%とか書いてくれますので、医療も3%。これでは到底追いつきません。人件費の高騰だけでも十分には間に合いません。

実際の病院経営でいけば患者さんの数や、人口減少の影響もあり、検討していかなければいけないことはありますが、診療報酬、こういったものが、しっかりと運

営できるような体制を、国の方で考えていただかないと、持続できません。

私も頑張りますが、ぜひ知事に、持続可能な地域医療、介護サービスとなるよう、連携しながら、また国の方にも力をいただければと思います。

(知事)

おっしゃる通りで、今のままでは、診療所も、病院も、潰れていくというのは目に見えています。

今、どんな病院でも、医師に来てもらうために、最新の機器を入れようとしています。そうするとものすごくコストがかかって、その隣に大きな病院があってもそんな事をやる。それはおかしくて、そこは調整をしなければいけない。これから地域医療構想の中で、皆さんに入っていていただいて議論をしていくしかないと思っています。

加えて、薬価が非常に高くなっており、例えば抗がん剤だと、何千万もするお金がかかり、それに対して、医療保険で対応しており、個人が払うお金は、5万円が限度という形になり、それでもつはずがない。そういう意味では薬も含めて、医療行政を一から考え直していく時代に来ていると思っています。

なかなか医療行政は言いにくいところもあると思います。医師との関係で言いにくいとか、先ほど申し上げた、ドイツのような制度としていくような必要があるのではないかということは、我々からも言っていないと、おそらく厚生労働省本省は言えないんじゃないかという話ですので、また、町長の意見も聞かせていただきながら進めさせていただきたいと思います。

### 対話項目（3）人口減少について

(町長)

人口減少対策は、我々にとっても、知事にとっても最大の課題であり、危機的状況だと思います。

紀宝町でも、住みやすい、移住しやすいそういった町にしていこうと色々な対策を行っています。ある企業の幸福度ランキング 2025 では、三重県では紀宝町がナンバー1でありました。東海地方では第3位で、こんなに嬉しいことはありません。

紀宝町に住んで、子育てもしっかりでき、豊かに明るく、元気で楽しく生活できる町であると。人口減少対策についても認めていただき、紀宝町に住んでみたいと思っただけのような施策の展開をこれからもしていきたいと思っていますのでご支援いただきたいと思います。

(知事)

人生の価値観をどこに置くかだと思います。

東京に住むと快適な部分もあり、不便な部分もあります。

そうすると、地方に住むという選択肢も、これからもっと出てくるのではないかと思います。このあとの県民の方との対話の資料を拝見すると、豊かな自然に惹か

れていらっしゃる方が多いです。

ただ、自然だけではいけませんので、保育施設等の子育て環境の整備を一生懸命頑張っているからこそ、紀宝町が住みやすい町になっているのではないかと思います。これからも子育ての補助金等を使っていただいて、紀宝町をさらに住みよいところにしていただければと思います。